

「まぼろしの蝶」

本単元で育成する資質・能力

コミュニケーションを行う力・進んで参加する態度

1 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領美術の第2学年「A 表現」(2)の(7)「目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組み合わせを簡潔にしたり総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。」「B 鑑賞」(1)の(7)「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。」をうけて設定した。

「まぼろしの蝶」は、点描という技法を用いた表現の中で色を意識させ、並置混色などの基礎的な表現方法を学び、作品に生かすことができる題材である。自然界には多種多様の蝶が存在しており、色と形のバリエーションに富んでいる。生徒にとっても様々なデザインを自分でイメージすることができ、生徒一人一人のオリジナルの蝶を作ることができると考えられる。

構成がもたらす特質や感情を十分に理解した上で、美しく豊かで洗練されたデザインが追求できるように構想を深めさせたり、対話を取り入れさせたりする鑑賞学習の指導を行うことで、生徒が対象から意味や価値を見出す能力を伸ばすのにふさわしい題材である。

(2) 生徒観

事前に行ったアンケートから、表現においては「美術の授業で作品を描くとき、表したいことに合わせて表現を工夫している。」に肯定的な回答をした生徒は75.7%であったが「自分のイメージに合った表現ができない。」と思っている生徒は55.7%であった。その理由は「デザインを考えるときに頭の中では考える事ができても、実際に表現することになるとうまく表現できない。」がほとんどであった。このことから表現への意欲はあるが、創造的な発想・構想を基に表現する力、自分の心の中にあるイメージを表現をする力に課題があることが分かった。

鑑賞においては「美術の授業で作品を鑑賞するとき、作者が表したいことを、どのように工夫して表現しているかを意識していますか。」に肯定的な回答をした生徒は78.8%であったが「自分の考えを持ち、発表したりする。」生徒は51.6%であった。鑑賞学習において、生徒は作者の心情を読み取ろうと意識はしているが、作品の見方や感じ方に広がりがない。このことから、作品を見て考えたことを的確な言葉にして、他の人たちに伝えることが苦手だと感じている生徒が多い。

(3) 指導観

本学級の生徒の課題を克服するために、「イメージを具現化させるための手立てを充実させること」と「ものの見方や感じ方を広げること」を指導改善のポイントとした。

前者については、「ことば」での表現を記録し振り返りに生かすため、本題材の全時間を通して使えるポートフォリオ形式のワークシートを作成する。生徒がイメージにあった表現ができるように指導に生かしていく。

後者については、対話を取り入れた鑑賞学習の指導において、生徒が対象からの意味や価値を見い出していく能力を伸ばす働きかけを行う。そこで展開の前半で、「対話による鑑賞」の手法を取り入れ、ジョルジュ・スーラの「グランド・ジャット島の日曜日の午後」の鑑賞を行う。「対話による鑑賞」は、参加者が鑑賞対象についてやり取りしながら見方・感じ方を広げ、作品に関する意味・価値を協働的に作りだしていく手法である。対象から意味や価値をつくりだす学習を通して、画面の中で混色されたように見せる点描の効果を感じさせるとともに、その工夫点や発想などの意図を伝え合い、色を意識し表現活動に生かそうとする意欲をもたせる指導をする。

2 本単元で育成する資質・能力

本校で育成する資質・能力	
コミュニケーションを行う力	自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力。
進んで参加する態度	集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を踏まえた上で、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする態度。

3 題材の目標

- 意欲的にデザインの活動に取り組み、表現していくことの楽しさを味わうことができる。
- イメージをふくらませて表現の構想を練り、創造的に表現することができる。
- 形・色彩・光などの造形要素を意識して鑑賞し、対象の見方や感じ方を広げることができる。

4 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○意欲的にデザインの活動に取り組み、表現していくことの楽しさを味わおうとしている。 ○鑑賞する作品に興味をもち、意欲的に鑑賞活動に取り組もうとしている。	○蝶のイメージをまとめ美しさを伝えるために、形や色彩などの効果を生かし表現の構想を練っている。	○アイデアスケッチを描くことを通して表したいイメージを具現化している。 ○形・色・光などの造形要素を意識して表現意図に合う方法を創意工夫している。	○造形要素を意識し、対象の見方や感じ方を広げている。

5 単元の指導と評価の計画 (全10時間)

次	学習内容(時数)	評 価				指導上の留意点	
		関	発	創	鑑		
一	○「点描のレッスン」で点描を意図的に使いこなせるように基礎的な理解と方法を学ぶ。(1)	○				○意欲的にデザインの活動に取り組み、表現していくことの楽しさを味わおうとしている。 ○形・色・光などの造形要素を意識して表現意図に合う方法を創意工夫している。 《行動観察・作品・ワークシート》	・点描を意図的に使いこなせるよう基礎練習を行わせる。
二	課題の設定 ○「まぼろしの蝶」のデザインを考える。初発のアイデアを複数スケッチに表す。 ○自分の考えやイメージをまとめ自分の考えを短い文章で表し主題を明確にする。(2)	○				○意欲的にデザインの活動に取り組み、表現していくことの楽しさを味わおうとしている。 ○蝶のイメージをまとめ美しさを伝えるために、形や色彩などの効果を生かし表現の構想を練っている。 《行動観察・作品・ポートフォリオ》	・イメージにあった表現ができるようポートフォリオを活用させる。
三	情報収集 整理・分析 点描について興味と関心をもつ。 ○ジョルジュ＝スーラの「グラウンド・ジャット島の日曜日の午後」の鑑賞をする。 ○点描の表現練習をする。(1) (本時4/10)	○			◎	○鑑賞する作品に興味をもち、意欲的に鑑賞活動に取り組もうとしている。 ○造形要素を意識し、対象の見方や感じ方を広げている。 ○形・色・光などの造形要素を意識して表現意図に合う方法を創意工夫している。 《行動観察・ポートフォリオ》	・電子黒板を使い作品を提示する。 ・生徒が、対象の見方や感じ方を広げられるよう、場の設定や発問を工夫する。
四	まとめ・創造・表現 「まぼろしの蝶」のデザインの下絵を丁寧に描く。(1)				○	○アイデアスケッチを描くことを通して表したいイメージを具現化している。 《行動観察・作品》	・ポートフォリオを活用することで、蝶のデザインをよりよく完成させる。
五	まとめ・創造・表現 「まぼろしの蝶」の点描に入る。 ○自分のイメージに合った色彩を考え、アイデアを生かす独創的で美しい表現をする。(4)				○	○蝶のイメージをまとめ美しさを伝えるために、形や色彩などの効果を生かし表現の構想を練っている。 ○形・色・光などの造形要素を意識して表現意図に合う方法を創意工夫している。 《行動観察・作品・ポートフォリオ》	・ねらいに応じた表現ができるよう、工夫しながら点描をさせる。
六	振り返り ○学習してきたことを振り返り、ポートフォリオの始めと終わりを見渡して成長したと思うことを文章でまとめる。(1)				○	○造形要素を意識し、対象の見方や感じ方を広げている。 《行動観察・作品・ポートフォリオ》	・書画カメラを使い作品を紹介し、作品の良さや表現方法の特徴などを伝える。

6 本時の学習(4時間目)

(1) 本時の目標

美術作品の造形要素を意識して鑑賞し、表現意図に合う点描の方法を創意工夫する。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項(○) (「◆努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て □ICTを活用した指導の工夫)	評価規準(観点) (評価方法)
1 前時の振り返り。 本時の目標の確認をする。	○前回までの学習内容の確認を行う。ポートフォリオ「B」で描いた「蝶」のデザインに点描表現することを確認する。 ○本時の目標を設定する。	
美術作品の造形要素を意識して鑑賞し、表現意図に合う点描の方法を創意工夫する。		
2 教師が提示する作品を鑑賞する。	○活動内容の流れを説明する。 ○生徒が作品に関する意味・価値を協動的に創り出せるように形・色・光などの造形的な視点を明確にした発問をする。	鑑賞する作品に興味をもち、意欲的に鑑賞活動に取り組み、対象の見方や感じ方を広げている。 [関心・意欲・態度][鑑賞の能力](行動観察・発表)
・人がたくさんいる。・光が当たった部分と、影の部分がある。 ・作品がすべて点描で表現されている。・一色に見える部分もよく見ると、様々な色が使われている。		
3 点描の打ち方を練習する。 ・自分のイメージに合った点描を工夫しながら表現する。	○鑑賞活動を終え、席に移動させる。 ○自己の色のイメージに合った表現を見付け出し、ペンの色の組み合わせを工夫しながら点描をさせる。 ○スーラの作品を参考に実際に点描を経験することで、より詳しく表現の工夫に気付くことができるようにする。 ◇◆個別指導を行い、点描表現について支援を行う。	形・色・光などの造形要素を意識して表現意図に合う方法を理解し、ペンの色の配色を意図的に使いこなすことが出来る。[創造的な技能](ポートフォリオ)
4 点描の表現をした工夫点について発表する。	□書画カメラを使い作品を紹介する。 ○それぞれの点描表現の工夫点を挙げさせ、その工夫点を整理することで美しく構成するための要素を確認させ、自分の作品に取り入れられるようにする。	造形要素を意識し対象の見方や感じ方を広げている。[鑑賞の能力](ポートフォリオ)
生徒のまとめ例 ・ジョルジュ・スーラの作品「グランド・ジャット島の日曜日の午後」を参考に光が当たった部分と、影の部分表現した。・黒や灰色を使わずに、点描の表現をした。・彩度の高い色だけで点描の表現をした。 ・「密」と「疎」, 「密」から「疎」のグラデーションを工夫した。・デザインのイメージから、色を考え表現した。		
5 本時のまとめをする。 ・ポートフォリオを提出する。	○本時の成果と課題を具体的に指摘し、次回につながるような示唆を与える。 ○次時の活動内容を説明する。 ◇ポートフォリオを提出させ、自分のイメージに合った表現が十分に出来なかった生徒については、支援を行う。	